

第 108 回 日商簿記検定試験 1 級商業簿記・会計学 予想の結果と講評

科 目	第 1 予 想	第 2 予 想	第 3 予 想
商業簿記	貸借対照表の作成(税効果あり) 的中！	連結会計(在外子会社あり) 惜しい！	本支店会計
会 計 学	第 1 問 理論問題（正誤）的中！ 第 2 問 売価還元法 第 3 問 連結会計(税効果含む)	第 1 問 理論問題（適語補充） 第 2 問 リース会計的中！ 第 3 問 資本金計(自己株式含む)	第 1 問 理論問題（語群選択） 第 2 問 有価証券の評価的中！ 第 3 問 ソフトウェア会計

【商業簿記】

順当な形で、貸借対照表の作成が出題されました。損益計算書の末尾まで問われたのは予想外ですが、税効果会計、リース会計、有価証券の評価といった出題内容は予想通りでした。

ただ、今回の出題の特徴として、次の 2 点が挙げられます。

期首貸借対照表 期中取引 決算整理 貸借対照表 という形で時間の流れを伴っていたこと(予想通り全経上級に近い良問でした)。

期首貸借対照表から、貸倒引当金、減価償却累計額、割引手形といった評価勘定項目が直接引かれていたこと。

これらの状況を踏まえると、技術的には時間の流れを伴った問題の解き方(T フォーム解法)を身につけていることと、精神的には強い集中力が要求されます。

なお、社債の償還や割引手形の処理など、処理法に特に指示のないものは各自の解き慣れた方法で解けばよく(貸借対照表の表示に影響しない)、また、損益関連まで処理していたのでは確実に時間がなくなってしまう問題でもありました。

【会計学】

第 1 問の理論問題は、それぞれが難しい問題でしたが、○ × のみの解答に留めてくれているので、受験生の間であまり点差が開かなかったものと思われます。

第 2 問は、久しぶりに長期請負工事が出題されました。問題としては難しいレベルではありませんが、資料の与え方がこれまでにない形であったり、A 工事では最終年度の調整が必要であったりしたため、とまどった方も多いのではないのでしょうか。この問題の出来不出来が合否を分けると思われます。

第 3 問は紙面都合上の理由で、理論での出題になったのではないかと思います。日頃の計算に関する知識から解答を作成できたかどうかポイントとなります。記載される財務諸表と区分は得点しておきたい内容です。

第 108 回 日商簿記検定試験 1 級工業簿記・原価計算 予想の結果と講評

科 目	第 1 予 想	第 2 予 想	第 3 予 想
工業簿記	標準原価計算 的中！	直接原価計算	予算編成
原価計算	予算実績差異分析	最適セールスマックスと差額 原価収益分析	活動基準原価計算 的中！

< 工業簿記 >

標準原価計算から、勘定記入と差異分析が出題されました。第 1 予想では、工程別原価計算との複合をあげていましたが、単一製品・単一工程というシンプルなものでありました。標準原価計算では「単位あたり標準原価の計算」に神経を集中する必要がありますが、今回の出題では、仕損の発生と段取作業の処理がポイントとなっています。1 ロットあたり 60 単位の製品と、3 時間の段取作業が必要ですので、1 ロットあたりの標準原価を計算し、そこから 1 単位あたりの標準原価を計算することになります。

また、問題文の資料には、1 ロットあたりの数量が 60 単位と 30 単位の両方が出てきますが、あくまでもベースは 60 単位 / ロットで計算しておくことに注意が必要です。すんなりと原価標準が計算できた方は問題ありませんが、この問題に多くの時間を使いすぎると原価計算にける時間が削られてしまいますので、時間配分のバランスが重要になります。

< 原価計算 >

活動基準原価計算（ABC）から、製品原価の計算と価格設定までが出題されました。資料の整理を正確に行い、冷静に計算を行えば大丈夫ですが、バリューエンジニアリングや確率など聞きなれないキーワードで戸惑う方もいたかもしれません。活動基準原価計算は、通常総合原価計算との比較という形で製品原価の計算のみが問われることが多いのですが、ライフサイクルコストの考え方や価格設定のマークアップ率とも組み合わせられ、総合的な問題として出題されてます。

問 1 から問 3 までを完答できれば合格ラインになるものと考えられますが、設備投資の論点で出てくる加重平均資本コストの計算を思い出して、あきらめずに挑戦することができたかどうか合否を分けたものと考えられます。